

しのはらの風 20-7号

小淵沢町篠原区情報紙
発行人; 区長 松井 皎
編集; 藤代 富美男

<考えよう「篠原区のあるべき組織と運営」について>

小淵沢が北杜市になって3年。11月16日は小淵沢の有権者にとって初めての市長選です。また、市議選も町村別から全市からの選出となりました。この日から、旧の小淵沢町民としても直接間接、市や町・地域づくりに連帯し責任を持つことになり、今後一層、市民としての自立とか主体性とかが問われることになるのだと思います。

篠原区のこの3年。市の方針に伴う対応とともに、区の主体性で一定の変革を行ってきましたが、この取り組みについてはまだ道半ばです。今後とも、区の状況を総括しながら「あるべき篠原区の姿」を区民みなさんと一緒に考えてみたいと思っています。

(区長 松井 皎)

<エコツアーが実施されました>

11月7日(金)に区の環境部によるエコツアーが実施されました。参加者は健全な男女区民21人です。見学先は韮崎市にある「エコパークたつおか」と須玉町津金にある国土興産(株)です。両施設の特徴は前者が可燃ごみと不燃ごみの処理施設で後者が資源ゴミのリサイクル施設です。

「エコパークたつおか」は①可燃施設(可燃粗大含む)と②リサイクルプラザ(不燃粗大含む)から成り立っています。①は平成15年4月、②は平成18年4月から稼働していて韮崎市、北杜市、甲斐市(旧竜王町除く)の合計115,388人(H20,3,31現在)から出されるゴミの処理に当たっています。所長さんの説明ではゴミは燃やすのではなく高熱処理をして溶かすのだそうです。そしてチップ化したゴミを原料にして高熱を維持しながら処理を続けていきます。そうすることで経費を節約できるのです。そこで問題となるのが危険物(ガスの残ったボンベ等)や不適品(金属類やワイヤーたわし等)の誤入による事故です。ボンベの爆発やワイヤーたわしの絡み付きで止まってしまった450℃に熱せられたドラムを冷やすのに2日間、点検修理に1日、ドラムを使えるように再加熱するのに2日間の合計5日間の日数と過熱するための石油代金200万円が余分にかかり、それは利用する3市に負担が求められます。結果的に私達の税金で支払っているのです。その他にもなるほどと思うようなことが沢山ありましたが紙面の都合でこの辺にしておきます。次回のエコツアーには今回参加されなかった方々も是非参加してみてください。ビックリすることが一杯あります。所長さんから分かり易いお願いがありました。分別で迷ったら不燃ごみに!!これが安全なゴミの出し方です。不燃ごみで出せば金属(アルミ、鉄等)は現金化できて経費の削減になるのだそうです。

う〜んなるほど。一部でエコパークと市のゴミの分別に関しての指導に食い違いがあるようですが現在調整中とのこと。疑問に感じたら総合支所環境整備課に問い合わせてください。3市の可燃ごみの比較では人口一人当たり一日の排出量で甲斐市が690g、韮崎市が580g、北杜市が340gとなっています。これは分別の意識の表れ方の違いだといえるようです。誇っていいことだと思います。燃えるごみが増える傾向にあり、処理能力を超えると施設の増設等で莫大な負担を強いられます。分別をさらに進めて燃えるごみを減らすようにしたいものです。

2件目に訪問した国土興産(株)は資源ゴミをリサイクルする企業です。私達が無意識に出した雑誌や新聞、ペットボトル等を気の遠くなるような作業を繰り返して処理しています。殆どの人が新聞や雑誌を束ねる時にビニール紐を使って崩れないようにとしっかり縛りますが、これが困るのだそうです。紙ひもを使って欲しいということでした。ビニール紐を切るのにも人件費が余分にかかり結果的に税金で支払われるようになるのです。私達でできることはすぐに実行しましょう。今年の4月から回収が始まったミックス紙も出して欲しいですね。これがうまくいくと燃えるごみの減量化に大いに役立ちます。国土興産(株)の話によると小淵沢町の資源ゴミの出し方は周辺の町に比べると良く分別されているとのこと。これが結果的にゴミの減量につながっていきます。もっともっと突き詰めていきましょう。

<しのはら文化祭>

11月9日(日)に公民館で「しのはら文化祭」が催されました。区民の皆さんによる作品の展示、フルートコンサート、フリーマーケット、談話コーナーと楽しさ一杯の催しでした。

中でも目玉は3組在住の菅野芽生さんによるフルートコンサートでした。区の集まりであればほど沢山の人が集まったのは見たことがありません。定時総会よりも多かったですね。公民館の会議室という場でしたが菅野さんの演奏に老いも若きもしばし身も心も奪われて名曲の渦に巻き込まれていました。良かったですね〜。菅野さん、どうもありがとうございました。

フリーマーケットでは女性の力が出ましたね。大盛況でした。これもエコです。

区民の皆さんによる作品も出品されました。緻密な模型工作や写真、木彫作品、書など多くの力作です。出品された皆さんありがとうございました。案外この他にも隠れた作品を持っている方がいるのかもしれませんが。来年は思い切って出してみてください。

区民の皆さんが楽しい語らいを持って知り合いの和(輪)があっちにもこっちにも出来ていましたね。4組の中さんの発案で3年前に始まったこの集いの主要な部分、井戸端喫茶の所以です。これがあるから自治会は楽しいんです。見知らぬ土地に来て新しい人達がいろいろな人と触れ合って少しずつ馴染んでいく。古くから住んでいる人に暮らし方のコツを教わる。お金では買えない触れ合いです。

<区費から支払われているものについて>

皆さんからお預かりしている区費は施設の維持管理や行事、環境整備その他に使われていて、なくてはならない貴重なものです。その他の用途として公的分担金があります。消防団協力金（1戸当り¥2,000）、社会福祉協議会会費（同¥1,000）、体育協会会費（同¥300）、文化協会会費（同¥300）、緑化推進会議会費（同¥300）、共同募金会（同¥700）となっています。

本来は住民の総てに会費や協力金を求められていますが区では区に加入している皆さんの区費から区民戸数分を一括して支払っています。それぞれの団体の活動は町民（市民）全員が参加、利用できることが建前となっておりますので利用できることや参加できることは積極的におこないたいものです。

ここで疑問が出ますね。区に加入していない人はどうなっているんだろう？やはり利用したり参加したりするのでしょね・・・

<またまたゴミの問題について>

毎月第3土曜日のゴミステーション清掃に参加したことのある人は良くご存知だと思いますが、これだけこの紙面で資源ゴミの排出日のご協力をお願いしているにもかかわらず、ダンボールや新聞紙、雑誌等がたくさん事前に出されています。当日の9時から11時と時間まで決めているのは清掃活動を容易にするためです。誰も貴重な休日に余分な時間を使いたいとは思っていないはずです。

事前に捨てる人は清掃活動に参加していない人だと思っています。参加していて事前に捨てるとすればよほどの事情があるか、非常識で自分だけよければいいと考える人ですね。その上に宅配便の宛名まで付いていて理解に苦しみます。事前に捨てているあなた、一度清掃活動に参加してみてください。

ところで、総合支所環境整備課の課長さんの話では、他の区に比べて篠原区のゴミ袋には名前が書かれていないものが多いとのことでした。名前が書いてあると区民以外の人はゴミを出しづらいという実績があるといひます。やはり名前を書きましょう。

<クリスマス会が催されます>

12月6日（土）11:30から公民館でクリスマス会が開かれます。主催は福祉部で協賛が長寿者クラブです。これで何となくわかりますね～、おとなのクリスマス会なんです。といっても別に変な意味ではありません。お弁当が出てお茶が出ます。チェロの演奏に「くんぺい童話館」の東さんのお話といろいろ趣向があるようです。更にピンゴや民謡と参加型の楽しみもあります。区民なら誰でも歓迎です。ただ、お弁当を用意する都合がありますので申し込みをお願いします。各組の組長さんに11月30日（日）までに連絡して申し込んでください。長寿者クラブのメンバーの申し込みは要りません。

∞∞∞∞メリークリスマス！！∞∞∞∞

<ママさんバレー>

10月26日(日)に小淵沢町内ママさんバレーが行われました。我らが篠原・女取チームはAクラスの1回戦下笹尾、2回戦尾根チームと戦いました。下笹尾とは第3セットまでもつれ最後はジュースになり1点差で残念ながら敗北。1回戦で全力を出し切ってしまったので2回戦はあっさりストレート負け。しかし頑張りましたね～。白熱した戦いでした。志村コーチも「こんなにいい試合が出来るなんてすごい」といっていました。ママさんバレーのメンバーは平均年齢30～?才。篠原の力のもとです。益々頑張ってくださいね。

「開拓の思い出」、今回は七、教育関係についてです。文字遣い、句読点等そのまま。

「開拓の思い出」

七、教育関係について

志村 卓爾

昭和二十年から二十一年頃三角兵舎に甲府四十九連隊、東部六十三部隊が居住していた。終戦後その三角兵舎を篠原の教育の場として一部を臨時に分校に使用していた。(篠尾村小学校の分校)

その時の先生は、宮沢純太郎先生、小林時重先生の二人だった。其の後篠尾村立篠原分校が建設され、建設委員に組合の役員他にPTAより会長手塚立三、小松徳右衛門さん達が直接建設に携わる。大工さんは、青山泰造、青柳常勝さん達で、使用した材木は中矢さん宅前の上笹尾の県借地林を払い下げ願って、組合員が出動して伐採し建設用材に使用、組合の製材所で製材して(建築は組合が請け負う)其の後老朽し再度建て直す。現在の分校、その後も屋根壁等破損箇所があり、葺替塗替等も行っ管理を続け、毎月交代で清掃管理を続ける。昭和四十八年分校が閉校になり小淵沢町より篠原の公民館として区へ払下げ願った当時は分校を中心にして演芸会、運動会、集会、クリスマス会や祭の催しに諏訪太鼓も招いて、校庭での盆踊り大会などを楽しい年中行事として盛大に実施した。

開拓と云う目的を同じに持つ同氏達が組合長兼区長さんの号令で組合の役員さん達が積極的に協力して行事が進められて結束が強く、苦楽を共にして来た。校舎のまわりにPTAの皆さんが植林した赤松、カラ松、白樺も大きく育った。子供達も伸々と育ち学校で気に入らない事があると家に帰ってしまうとか、屋外に出て校舎に入らず皆んなで呼びに行っ戻ってくる一こまも有り学校内が本当に和やかであった。

分校の小遣さん岩下義広さん夫妻、やさしい人柄で給食のパンを毎日清水屋菓子店へ雨の日も雪あらしの日も悪路の中受け取りに行くなど本校役場等の用事を受持っくれて構内管理については先生方も安心して依頼出来、本校に合併する迄長い間だ御苦労様でした。感謝の気持ちで一ぱいです。一年生から四年生迄編笠登山など体力づくりにも力を入れて楽しい行事も多く行なわれていた。